

研究機関名：東北大学

1.受付番号	2020-009
2.研究課題名	社交不安における心理的慢性ストレス状態の維持過程の記述的検討
3.研究期間	令和3年3月30日～令和4年3月31日
4.研究の概要	<p>意義・目的（研究の背景・目的や倫理的項目についての確に記すこと。）</p> <p>社交不安を呈する者はネガティブな対人ストレスの経験頻度が高いことから（Farmer & Kashdan, 2015），慢性的に心理的ストレス状態にあることが想定されている。</p> <p>先行研究において，社交不安と対人ストレスとの間を調整する要因としては「負担感の知覚」や「所属感の減弱」が想定されている（Siegel et al., 2018）。負担感の知覚は，「家族や友人，社会にとって自分が重荷になっており，自分が生きているより死んだ方が価値があると捉える感覚」と定義されており（相羽他, 2019），その程度が高い場合において，ネガティブな対人ストレスの経験頻度が高くなることが示されている（Siegel et al., 2018）。また，所属感の減弱は「人とのつながりがなく自分の居場所がないと感じること」であり，社交不安と関連があることが示されている（Arditte et al., 2016）。</p> <p>したがって，社交不安を呈する者において負担感の知覚や所属感の減弱の程度が高い場合，ネガティブな対人ストレスを経験しやすく，慢性的な心理的ストレス状態に至りやすいと考えられる。しかしながら，これらのプロセスは十分に検討されていない現状にある。</p> <p>そこで本研究では，社交不安における心理的な慢性ストレス状態を爪試料によるコルチゾール値によって定量化し（Fischer et al., 2020），負担感の知覚と所属感の減弱，ネガティブな対人ストレスの経験頻度との関係を縦断的に検討することを目的とする。</p> <p>なお，本研究は人由来試料として爪試料を用いて検討することから，「人を対象とする医学系研究」に該当すると判断し，川内南地区「人を対象とする医学系研究」倫理審査委員会に申請を行った。</p> <p>また，本研究計画の内容は早稲田大学「人を対象とする研究に関する倫理審査委員会」において承認を受けており（承認番号：2020-279），東北大学は共同研究としての当該研究計画の分担施設である。本申請書の研究実施責任者は，東北大学における研究参加者募集を担当する。</p> <p>方法（研究に必要な対象者人数、年齢構成、性別、および対象者を選ぶ方針・基準も記すこと）</p> <p>本研究計画の主要な仮説を検討するための分析において，中程度の効果量を検出するために必要なサンプル数は，シミュレーションの結果 71 名である（Faul et al., 2009）。この基準を十分に満たし，かつ当該研究領域において慣例的に求められるサンプル数，およびデータの欠損の可能性等を考慮し，約 100 名を対象として研究を実施する。本研究の包含基準は下記の通りとする。インフォームド・コンセントが得られた者に</p>

対しては、健康状態チェックシートを実施し、包含基準を満たすことが確認できた者のみを対象として研究を実施する。

■包含基準

- (a)18歳以上の男女その他の大学生および大学院生であること
- (b)インフォームド・コンセントの手続きを経て、本人から研究参加に同意が得られた者
- (c)過去に大きな身体的疾患に罹患したことがないこと
- (d)副腎に関連した疾患（原発性アルドステロン症、アジソン症、クッシング症候群など）に罹患したことがないこと
- (e)日常的に服薬をしていないこと
- (f)研究実施時、あるいは過去に心理療法やカウンセリングを受け、特定の診断名を与えられた経験がないこと
- (g)日常的に喫煙をしていないこと
- (h)研究実施時にマニキュアやベースコート、付け爪を利用していないこと

問い合わせ・苦情等の窓口（講座・研究室の連絡先を記入し、研究者の個人名は記入しないこと）

東北大学教育学部教育心理学講座・臨床心理学分野
Tel：795-6146

早稲田大学人間科学研究科・臨床心理学領域
Tel：04-2949-8113(内線 8321)